

海外の非母語話者日本語教師の教材使用状況に関する調査

—非母語話者教師が求めるもの—

保坂敏子*1・奥原淳子*2・草野宗子*3

要 旨

本研究は、母語話者日本語教師(以下 NT)と非母語話者日本語教師(以下 NNT)の協調的授業支援の実現を目指し、海外の NNT の教材使用における困難点とニーズを明らかにするために、7カ国 54 人を対象に質問紙調査を行い、使用教材に対する評価、授業を実施する上でのニーズを分析した。

その結果、海外の NNT は教材の文法解説、練習問題の充実など認知面を肯定的に評価するが、学習者はわかりやすく面白いという情意面を評価すること、また、言葉の自然さや適切さの判断と指導内容の量の扱いに困難を感じていること、さらに、学習者の学習意欲を持続させるなどのために視聴覚教材を強く要望していることが分かった。また、回答から読み取ったニーズからは、教材選択に関する情報の必要性が浮かび上がった。以上のことから、NT と NNT は視聴覚教材、教材選択・使用法について協調的
情報フィルタリングを利用した授業の相互支援ができるのではないかと考えられる。

キーワード:海外の非母語話者日本語教師 視聴覚教材 ニーズ 協調的授業支援
協調型情報フィルタリング

1. はじめに

『海外の日本語教育の現状—日本語教育機関調査・2003 年』(2005)によると海外の日本語教師の数は3万人あまりで、そのうちの約 7 割が現地の非母語話者教師(以下 NNT)である。NNT の利点は、学習者と母語や文化背景が同じであること、学習者の興味・関心や学習スタイル、学習動機や目的が社会的文脈の中で理解できること、などが挙げられる(阿部・横山 1991, 石井 1996)。しかし、横山(2005)も述べているように、NNT は日本語能力に不足を感じており、学習者の発話や作文の正確さ・適切さ・自然さの判断に不安を感じるなどの問題も抱えている。また、海外の日本語教育では、教材の入手が難しく、利用できるリソースは限られる場合もあるだろう。

NNT に対する組織的な支援は、国際交流基金などにより教師研修や教材の供与などソフトとハードの両面から行われている。教師研修は、主に成長する教師、反省的実践家の養成を目指すという長期的な展望に立って実施され、NNT の研修・教育を受ける機会は拡大している。しかし、その機会はまだ限られており、教育現場に直結した問

題の解決は NNT の手に委ねられているのが現状であろう。教材についても、寄贈の機会があるだけでなく、情報通信技術の進展により海外でも日本語のリソースが入手しやすくなってきた。しかし、海外では映像教材が有効に活用されていないことも分かっている(保坂他 2004)。このように海外の NNT は授業を行う上で様々な困難にぶつかっていると考えられる。

一方、教育現場で問題を抱えているのは、NNT に限ったことではない。日本語教育に携わる者であれば、母語話者日本語教師(以下 NT)であっても授業を実施する上では NNT と同じような問題を抱えている場合も多いだろう。このような問題を解決するためには、今後、教育現場に立つ NT と NNT が相互に協力し合うこと、特に協調的授業支援ができるようになることが望まれる。

そこで、本研究では、NT と NNT の間の協調的授業支援の実現を目指し、海外の NNT が教材に対して何を求めているのかを探るために調査を行った。

2. 調査の概要

2.1 調査の目的

本調査は、NT と NNT の協調的な授業支援の可能性を探るために、海外の NNT の使用教材に対する評価、教材使用における困難点、授業を実施する上でのニーズを明らかにすることを目的とする。

2.2 調査の方法

調査は、2006 年 9 月～2007 年 3 月にかけて質問紙と Web アンケートを用いて行った。質問紙の配布と Web アンケートの案内は、韓国の高麗大学と新羅大学、中国の香港中文大学に依頼し、南米については(財)海外日系人協会の協力を得た。その他、個別に回答を依頼した。

2.3 対象者

調査の対象者は、海外で日本語教育に従事する NNT で、7 カ国 54 人の有効回答を得た。国別回答者数と回答した授業数を表 1 に、アンケート回答者が教えている機関および学習者の内訳を表 2 に掲げる。

表 1 回答者、回答授業数の内訳

	韓国	アルゼンチン	中国(香港)	ウクライナ	ウルグアイ	キルギス	ブラジル	合計
回答者数	34	11	5	1	1	1	1	54
回答授業数	61	17	10	3	2	3	1	97

表2 教えている機関と学習者

国・地域	教えている機関						教えている学習者					
	大学	高校	中学	日本語 学校	個人教 授	その他	大学生	高校生	中学生	小学生	会社員	一般成 人
韓国	33	1	1	1	2	1	34	2	2	0	1	1
アルゼンチン	2	0	0	11	1	1	4	3	5	6	2	4
中国(香港)	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0
ウクライナ	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
ウルグアイ	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0
キルギス	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
ブラジル	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0
合計	41	1	1	12	3	5	46	6	8	8	4	6

※機関「その他」：
韓国「国家公務員」・アルゼンチン「会社」・ウルグアイ「在ウルグアイ日本人会」・キルギス「人材センター」
ブラジル「クリチバ日伯文化援護協会」

2.4 分析の方法

調査票は、使用している教材、授業を実施する上での問題点、必要だと思う教材・情報などに関する記述式質問 10 項目で構成されているが(【参考資料1】参照)、ここでは、教材やニーズに関わる質問 8 項目を分析の対象とした。

現在使用している教材については、国別、レベル別に分類し集計した。教材の良かった点とニーズに関する記述は、要点をコーディングして分類を行った。また、教材の問題点に関する記述は、さらに、グラウンデッド・セオリーを参考に記述データから読み取れるニーズを解釈し、コード化して集計を行った。

3. 結果と考察

3.1 使用教材に対する評価

3.1.1 肯定的評価

(1)使用して良かった点(教師側)

これまで使用した中で最も良かった教材と、どんな点が良かったかを尋ね、47の有効回答を分析し、17の要点を抽出した¹⁾。延べ数の多い順に1~6位まで並べたのが表3

表3 使用して良かった点(教師側)

順位	要点	延べ数
1	文法	11
2	内容・構成	10
	練習問題	10
4	絵・視覚教材	6
	語彙	6
6	わかりやすさ	5
	面白さ・学習者の興味	5

である。その結果、上位から順に文法(11)、内容・構成(10)、練習問題(10)、絵・視覚教材(6)、語彙(6)、わかりやすさ(5)、面白さ・学習者の興味(5)であった。

「文法」については、主に文法説明が良い、文法の説明がわかりやすい、体系的という記述が多く、教える上で有用だということがうかがえる。「内容・構成」については、全体的に構成がよい、内容が充実している、内容が学習者の目的に合っているなどの意見があった。また、「練習問題」については、主に問題の内容が豊富で、量的にも満足しているという意見

が多数を占めた。これに対して、順位が下になるため表には示していないが、「例文・用例」に分類された回答が4であったことから、教える上で例文よりも、すぐに練習できる練習問題を重視しているのではないかと推測できる。例えば文法説明などで、多くの例文を挙げて指導するのではなく、媒介語を使用して理解させているのではないと思われる。

「絵・視覚教材」の項目では、わかりやすい、単語などが覚えやすい、学生の興味を引くなどの回答があった。『絵とタスクで学ぶ日本語』『日本語作文入門』などを挙げ、「活用しやすい」「難しい文法を絵を用いて易しく教えられる」などと述べていることから、絵カードなどを主教材の他に用いるのではなく、教材に付いている挿絵が学習者の理解を助けていると見られる。また、この質問項目ではビデオなどの視聴覚教材について、具体的な教材名をあげて「よかった」というコメントが見られなかった。市販の書籍などの教材に比べて、海外では手に入りにくいのかも知れない。また、活用の仕方の問題があって、有効性を感じていないことも考えられる。

使用して良かった教材として名前の挙げられているものでは、『みんなの日本語』が最も多く、次いで『新文化日本語』、『文化日本語』であった。その他は被調査者によってばらつきがあり、所属する教育機関で独自に作成した教材を挙げている場合も見られた。

(2) 評判の良かった点(学習者側)

学習者に評判の良かった点について挙げられた41の回答を分析し、21の要点を抽出し延べ数の多い順に並べたものが表4である。上位から順に、わかりやすさ(8)、面白

表4 評判の良かった点(学習者側)

順位	要点	延べ数
1	わかりやすさ	8
	面白さ・学生の興味	8
3	内容・構成	5
	日本事情・生の日本語	5
	絵・視覚に訴えるもの	5
6	文法	4

さ・学生の興味(8)、内容・構成(5)、日本事情・生の日本語(5)、絵や視覚に訴えるもの(5)、文法(4)であった。「わかりやすさ」については、『文化日本語』や『みんなの日本語』などの教材そのものがわかりやすいと述べているのと、日本のポップミュージックや『ドラえもん』の漫画などがわかりやすいと言っている場合と、ほぼ二分される。

「面白さ・学生の興味」の記述を見ても、ビデオ、新聞記事、CD、漫画などを面白いと捉えているものが目立った。この結果から、学習者がわかりやすいと感じ、興味を引くとして高く評価するのは、上記のようなポップカルチャーを中心とした生教材であることがわかる。これは「絵や視覚に訴えるもの」にも関連しているようで、アニメやドラマなどの映像の他に絵や写真が学習者の興味を引き、理解を助けていると述べている。

「日本事情・生の日本語」では、現在の日本社会や日本人の生活を知ることができる

とか、生きた日本語に触れることが学習者の関心を呼ぶという記述が見られた。

教師側から見て良かった点と比較してみると、教師の回答数が多く、学習者側から見ると著しく少ないものがあった。例えば文法(教師 T11:学習者 L4)、練習(T10:L2)、語彙(T6:L0)である。教師側が文法、語彙など言語の形式面を重視しているのに比べ、学習者はわかりやすく、面白いビデオなどに対して評価が高く、教師と学習者とのニーズの違いが出ている。

評判の良かったものとして名前の挙げられていた教材では、『みんなの日本語』が最も多く、次いで『文化日本語』、『うきうき日本語』などであった。教師が選んだ教材に比べ、特定の教材や資料ではなく、種々のアニメ、ドラマなどのビデオや歌のCD、漫画などが多く挙げられている。それについて、「最近の学生は理論的な講義より、生教材を使ってやる興味深い授業が好きなので」「生きている日本語に接し、覚えることができ、興味を持つ」「とてもリアルで生活環境を見ることができるから」などの理由が述べられていた。「わかりやすさ」「面白さ」などが上位を占める結果と総合して、学習者は情意的側面を重視して教材を評価していると見ることができる。

3.1.2 問題点

現在使用している教材を尋ね、国別にまとめ(【参考資料2】参照)、それをもとに NNT が教材のどのような点に問題を感じているのか分析した。問題点のうち延べ数の多いものから順に項目にまとめたのが表 5 である。多い順に、「自然な、適切な表現ではない」(15)、「量(内容・語彙・文型・説明)が多い」(8)、「文法解説の説明不足」(8)、「練習問題が少ない」(8)、「ビデオ・視聴覚教材の不足」(6)であった。

表 5 使用教材の問題点

順位	項目	述べ数
1	自然な・適切な表現ではない	15
2	量が多い	8
	文法解説説明不足	8
	練習問題が少ない	8
5	視聴覚教材の不足	6

「自然な、適切な表現ではない」については、特にテキストの場合に、「教材のとおりには話すとき硬い日本語だと言われる」といった問題が、他方、ビデオなどを使用している場合には、「くだけすぎている」「下品な表現やスラングの扱いに苦慮する」といった問題がそれぞれ挙げられた。また、語彙や表現を選択する際の自然さや適切さに関し、「母語ではない人には限界があるように思われる」という記述が見られたが、非母語話者特有の悩みだと言える。

また、量に関するコメントも多く見られ、特に、今回の調査で多く使用されていた『KUJAP シリーズ日本語』(高麗大学のオリジナル)にこのコメントが多く、このテキストの特徴であるのかもしれない。ただ、日本で作成されている教材について「易しい」というコメントが見られることを鑑みると、各国でオリジナルテキストを作成する場合、日本で作られる教材より語彙や表現を多くテキストに盛り込む傾向があるのかもしれない。また、量に関する不満が多いことから、教師が教材全てを教え切ることには多大な労力を費やし

ている姿が浮き彫りになった。

「練習問題が少ない」については、調査前、NNT は文型や表現を学習者に提示する際の適当な例文を求め、その不足を不満に感じるのではないかと予測していた。しかし、結果を見ると、例文の不足より練習問題の不足を訴える回答が多かった。文型や表現を教える際、日本では主に直接法で指導するため、例文の適切な選択と、ある程度の例文数が要求される。それに対して、国立国語研究所が「韓国の授業での日本語使用について、初級では文法説明を日本語で行っている割合はほぼ 10%で、中級においても 20%強に過ぎない(2004, p71)」と報告しているように、NNT が指導する場合、母語での解説が可能である。したがって、3.1.1 でも述べたように、理解したうえで繰り返し練習するのに必要な、しかも、すぐに使える「練習問題」が要求されるのだらうと推察される。

「文法解説の説明不足」に関しては、言及している教材はそれぞれ異なり、「使い方の違いの説明が足りない」といった NT からよく聞かれる問題が挙がった。また、「動詞の説明もなく『食べたい・開けてみて・行こう』などが本文中に出てくる」といった構成に再考を要するものも出てきた。教材に対する評価で、文法説明のよさ、分かりやすさを最も高く評価していたことから、NNT にとってこの問題が重要であることが明らかになった。

さらに、アニメ・ビデオ等の視聴覚教材、生教材の不足に対する不満も多い。これは学習者のレベルに関わらず要求されるものであろう。基本的な文型を指導するのでも、言葉のみによらず映像で示すことにより、理解が促されるのは言うまでもない。また、日本事情や生の日本語を学ぶにも、日本語使用の環境ではないからこそ視聴覚で訴える教材の必要性が高いのは当然であろう。

3.2 授業を実施する上でのニーズ

3.2.1 読み取れるニーズ

3.1.2 で述べた教材使用上の問題点を克服していくには今後何が必要だろうか。NNT が挙げた問題点全てにそこから読み取れるニーズをラベリングし、まとめたのが表 6 である。

その結果、「教材選択」「文法書」「ビデオ・視聴覚教材」「副教材」といった項目に関わるニーズが高いことがわかった。

今回の調査で、現在使用している教材の問題点を挙げてもらったが、前述のように「(教えることの)量が多い」「練習問題が少ない」「文法解説が不足」といった不満を抱いているのであれば、選択肢の一つとして他の教材を使うということが考えられる。所属機関の方針や意向などもあるので、個人で教材を変えるのは難しい場合もあるだろう。しかし、代替教材を探るのであれば、まず必要となるのは、「教材選択のための情報」で

表 6 読み取れるニーズ

項目	総延べ数	延べ数	読み取れるニーズ	項目	総延べ数	延べ数	読み取れるニーズ
教材選択	31	29	教材選択のための情報	例文	3	3	例文検索システム
		1	教材の入手方法に関する情報(リソース利用の仕方、交流基金等公的援助の情報 など)			3	教育実践に役立つ例文集の開発
		1	教材となるリソースの情報				
文法書	22	6	教師用文法解説書の情報	指導法	10	8	教材の使い方(内容の取捨選択、分量の調整)に関する情報
		6	教育実践に役立つ文法書の開発			1	教授方法に関する情報
		5	適切な文法解説書の情報	自学 自習	8	2	自学自習教材作成に関する情報
		4	文法教材の情報			2	自学自習の指導法に関する情報
		1	適切な学習者用文法解説書の情報			2	自学自習教材の開発
ビデオ・視聴覚教材	21	4	生教材の情報	漢字	6	2	自学自習教材の情報
		3	ビデオ教材の情報			3	漢字練習作成のための情報
		3	ビデオ教材となるリソースの情報			2	漢字教材選択のための情報
		3	ビデオ・リソースの活用法に関する情報	個人	6	1	漢字指導法の情報
		2	生ビデオ教材の活用法に関する情報			4	レベル差に対応した教え方や教材の情報
		2	新しいビデオ教材の開発			1	個人差に対応した教え方や、教材の情報
		2	視聴覚教材となるリソースの情報			1	個別指導、少人数クラスの指導の情報
1	視聴覚教材(マンガ、アニメ)の情報	年少者	3	3	年少者向け指導法の情報		
1	初級用ビデオ、漫画、映画の情報						
副教材	12	10	副(補助)教材の情報	聴読解	3	1	聴解教材・読解教材の情報
		8	副(補助)教材作成のための情報			1	聴解・読解教材となるリソースの情報
会話音声	13	4	「学習」と「実際の運用」がいかにつながるかの情報を提供	現地	2	1	聴解教材・読解教材作成のための情報
		3	会話運用練習の情報			2	現地向け教材の情報
		3	会話運用練習作成のための情報	文化	2	1	現地向け教材の開発
		1	日常会話を教える教材の開発			1	日本文化の教材の情報
		1	音声教材作成のための情報			1	日本文化教材となるリソースの情報
		1	音声教材の情報			4	練習問題作成のための情報
例文	12	3	例文検索に関する情報	その他	8	2	学習活動のデザインのための情報
		3	例文を容易にたくさん取り出せるリソース			1	一般目的教材の情報
						1	ホテル日本語用シラバス、教材の開発

ある。これは、メインテキストがレベルに合わない、練習問題が少ない、必要なスキルを伸ばす練習がないなどの問題点を解決するための「副教材」にも期待される点である。どんな教材かといった情報は、出版社や著者からのメッセージとして発信されているが、それにとどまらず、「こういう時にはこの教材がいい」といった使用者の生の声を反映させた情報であることが望ましい。また、「文法書」に対するニーズも高い。NNT 向けの文法解説書として、荒川他(2005)の「文法をやさしく」も具体策の一つであろう。これは NNT 向け情報誌『日本語教育通信』に掲載されたもので、使用語彙や文型・文体を調整し、挿絵などの視覚的補助手段を用いて作られている。従来、文法書には日本語で書かれたもの、NNT の母語で書かれたものの両方があるが、今後は NNT が教師であると同時に学習者でもあるという二面性を考慮し、理解と同時にそれが指導へと結び付けられる内容が盛り込まれた文法書であることが期待されよう。

さらに、「ビデオ・視聴覚教材」に対する要望の強さもうかがえる。ビデオ教材には大きく二つの役割が期待できる。それは、3.1.1 でも記しているように、学習者に評判の良かった教材の項目として多く挙がっていた「わかりやすさ」と「面白さ・学生の興味」である。視聴覚に訴えることで学生の理解を促すであろうし、学生の関心を向ける手段とし

ても有効であろう。実際、今回の調査でもビデオや視聴覚教材はレベルに関わらず使用されているが、「古い」「手に入らない」などのコメントがあることから質・量ともに十分とは言えず、その充実が期待される場所である。

3.2.2 明示的ニーズ

ここでは、46 の回答から必要とする教材について 16 の要点を抽出したものを多い順に6項目並べた(表 7)。上位から順に「視聴覚教材」(16)、「生教材」(8)、「話す・会話」(7)、「書く・作文」(6)、「練習・問題集」、「表記・漢字」がそれぞれ 5 であった。「視聴覚教材」

表 7 必要な教材

順位	要点	延べ数
1	視聴覚教材	16
2	生教材	8
3	話す・会話	7
4	書く・作文	6
5	練習・問題集	5
	表記・漢字	5

では、ビデオ、DVD など 映像教材をはじめ、スクリプトや台詞を集めた本が欲しいという記述もあった。その他にも漫画(4 コマなど)、アニメ、J-POP の CD、写真、PC のゲームなど多岐にわたって挙げられていた。「映像を通して楽しく日本語の勉強ができる教材が欲しい」「日本の生活・日本の文化を紹介する DVD が足りない」などの意見があり、視聴覚教材は、これからますます重要なニーズになると考えられる。「生教材」でも、ドラマやテレビニュース、新聞記事、雑誌、漫画、アニメなどが挙げられていた。海外

の NNT に向けて、種類も量も豊富に視聴覚教材が提供されることがのぞましいが、一方で、学習の目的や学習者に合った視聴覚教材を選択するという点も重要である。また、視聴覚教材の活用法や、視聴覚教材を用いた指導法などの情報交換をする場を創設するという点に協調的支援の可能性が出てくるだろう。

「話す・会話」の記述では、中級以上のレベルに合う教材がないなどの教材の不足を訴える記述のほか、日本事情を知ると同時に会話の練習ができる教材を求めている記述も見られた。

表 8 必要な支援

順位	要点	延べ数
1	教材	17
2	教師研修・指導法など	10
	NS との接触機会	10
4	日本に関する情報	7

次に、NNT が必要としている支援について見てみると(表 8)、圧倒的に「教材」が多く、17 であった。アンケートでは別に欲しい教材について質問しており、ここでは「必要な情報や支援」が何か書いてもらったが、ここでも「教材」が多く挙がる結果となった。具体的には、日常生活や文化、会話のビデオなどの視聴覚教材が最も多く、10 の回答があった。他には、文字、発音、語彙、文法・文型、読解、練習など多様な教材のニーズが見られる。

次いで多く挙げられているのが「教師研修・指導法など」(10)、「日本語母語話者(NS)との接触機会」(10)、「日本に関する情報」(7)だった。「教師研修・指導法など」では、指導書や情報の提供、専用のサーバなどをあげたものと、一方で、専門家によるアドバイ

スを求めたり、研修会を希望するものがあった。後者の場合、「NS との接触機会」と関連した記述もあり、学習者と日本人、教師と日本人、非母語話者の教師と日本人教師などさまざまな関係を築き、交流を深めたいと思っていることが推測できる。「NS との接触機会」の中にも、メールやネットを通じて交流したいというものと、直接会って交流したいというものと両方の記述があった。

「国研調査」(2004)の「日本語教師の資質・能力向上のために充実を希望するもの」という項にも、「日本人との交流」「訪日研修」と答えた割合が高かった。また、「再度あるいは継続して経験したい機会や場所」の項を見ても、「日本人家庭への訪問・ホームステイ」「日本人との交流会」を希望する割合が高かった。以上のことから、インターネットなどの情報・通信手段を活用して、教師や学習者をつなぐ場を設けるとともに、様々なレベルでの日本人との接触・交流の機会を作っていくことに今後の展望があると言えるだろう。

4. まとめと今後の課題

今回の調査から、全体を通して顕在化したのは、視聴覚教材へのニーズが非常に高いことだった。絵教材の他、アニメやドラマ、テレビニュース、マンガ、J-POP、写真などの生教材を含む視聴覚教材への NNT のニーズは非常に高く、それらの教材が不足していると感じていることがわかった。これは、NNT が授業を行う上で実際の日本語、日本事情などの情報を必要としていることの表れだろう。そして、NNT が視聴覚教材を求めるのは学習者がそのような教材を分かりやすく面白いと評価しているからであり、海外の教育現場では学習の動機付けと継続が課題となっているからであろう。海外では、学習者の動機を継続させ、漢字学習や中級レベル以上の学習に向かわせることは難しい課題だという(横山 2003)。国立国語研究所の調査(2004)では、韓国の学習者が授業以外に「マンガ」「テレビ番組」「ビデオ・DVD」に親しんでいることが明らかになっており、その他、タイ、マレーシア、台湾でも各種の映像に親しんでいることが報告されている。このような学習者の興味を引きつけ、学習意欲を継続させるためには、日本のポップカルチャーなどのリソースを視聴覚教材として利用することが有効だと NNT は捉えているのだろう。

また、調査から、授業を実施する上での NNT の特徴として、①言葉の自然さや適切さの判断に不安を抱いていること、②教科書に載っているものを全て教えようとする傾向があることの2点が浮き彫りになった。このような不安や問題を解決していく方策として、NNT が要望としてあげた教師研修や NS との接触機会を増やすということが考えられる。研修や接触機会を増やすことで、言語の自然さや適切さの判断について協動的に検討することもできるし、教科書の内容をすべて教える必要があるかどうかといった教材の使い方などについて情報交換をすることもできるだろう。

以上今回の調査で明らかになったことをふまえ、NTとNNTとの間で協調的授業支援として何ができるかを検討してみると、読み取られたニーズとして出てきた「教材選択」に関わる情報の交換、特に「視聴覚教材」に関する情報の交換を行うことに最もその可能性が考えられる。市販の教材の情報は、出版社の紹介冊子やインターネット上の情報など様々なものが存在する。しかし、それらの情報は、どんな時どのように役に立つのか、使用上の問題点・注意点は何かなど利用者側の立場に立った情報ではない。また、使い方についても、使用した人でなければ知り得ない情報で、機関の状況に応じて教材の内容を取捨選択したり、副教材を組み合わせるなどの様々な使い方があるという情報はあまりない。ましてや、生教材、特にアニメやドラマなど生のリソースは、元々視聴覚教材ではなく、教材としての情報があるわけではない。この場合、教材として使ってみた人の情報、利用者の経験を通じた情報が、NTとNNTの双方にとって役に立つものとなるだろう。近年、協調型情報フィルタリング (Collaborative Information Filtering) という考え方がネットワーク社会の情報検索手法として注目されている。これは、第三者による情報を情報検索に利用するもので、具体的には、「〇〇に役立つリンク」など情報を仲介したものや、インターネット上でのやりとりを FAQ (Frequently Asked Questions) にまとめた情報を指す。この方法を活用すると、相互作用を通して個人に蓄積されている分散した知識や情報を共有知識とすることが可能になる。NTとNNTが有益な情報交換を実現する協調的授業支援環境の有効な装置として機能するものと思われる。

最後に、近年 NNT に着目した論考や NT と NNT の関係性をめぐる研究が出てきている。これは、NNT の増加にともない、NT と NNT の関係性が問われ、協調的授業支援が求められるようになってきたことの流れであろう。現在、国際交流基金により反省的実践家の養成を目指し日本語教師のために CSCL 環境「みんなの教材サイト」が構築され、広く運用されている (Computer Supported Collaborative Learning: コンピュータによる協調学習支援)。NT と NNT が真の意味で相互に協力していく場が整いつつあるのだろう。今後はこのような教師の専門性を高めるための大規模な CSCL 環境とともに、教育現場に立つ NT と NNT が授業に直結した情報を交換できるような CSCW (Computer supported cooperative work) の場も必要となろう。今回の調査をそのような環境を構築するための一助としていきたい。

注

1) この質問項目は、教材名のみを挙げてもらっており、どのレベルで使用しているかについては質問していない。回答には日本で市販されている教材の他に、現地の教育機関や教師個人によって作成された教材など、多種多様なものが挙げられていた。どのレベル向けの教材か不明な記述も多いため、ここではレベルの違いを問わずに回

答からの要点を抽出した。

付記

本調査は、平成 18 年度～19 年度科学研究費補助金基盤研究(C)一般「海外の非母語話者日本語教師に特化した教育支援環境の調査と研究」(研究代表者:保坂敏子 課題番号:18520413)の一環として行われたものである。

謝辞

本研究の調査にご協力いただきました高麗大学の全亨式先生、新羅大学の崔光準先生、香港中文大学の李活雄先生、(財)海外日系人協会の中元司郎先生をはじめ、調査にご回答いただいた皆様に心より感謝いたします。

【参考文献】

- 阿部洋子・横山紀子(1991)「海外日本語教師長期研修の課題:外国人日本語教師の利点を生かした教授法を求めて」『日本語国際センター紀要』第 1 号 国際交流基金 pp.53-74
- 阿部洋子・横山紀子(2003)「海外の日本語教育の視点から」『日本語教育年鑑 2003 年版』国立国語研究所 くろしお出版 pp.23-33
- 石井恵理子(1996)「非母語話者教師の役割」『日本語学』15 巻 2 号 明治書院 pp.87-94
- 荒川みどり・木山登茂子(2005)「非母語話者日本語教師向け文法解説の試みー『日本語教育通信』「文法をやさしく」を執筆してー」『国際交流基金 日本語教育紀要』第 1 号 国際交流基金 pp.189-200
- 木谷直之・築島史恵(2005)「大学院修士課程におけるノンネイティブ現職日本語教師の意識変化ー学生のジャーナルの分析を通してー」『国際交流基金 日本語教育紀要』第 1 号 国際交流基金 pp.21-36
- 島田徳子・古川嘉子・久保田美子(2004)「日本語教師の教材制作支援サイト『みんなの教材サイト』の構築と運用」日本語教育工学会研究会配布資料
- 篠崎摂子・浜田麻里(2005)「非母語話者教師の日本語教育研究における研究課題の設定過程についてー北京日本学研究中心在職日本語教師修士課程コースの場合ー」『国際交流基金 日本語教育紀要』第 1 号 国際交流基金 pp.69-83
- 篠崎摂子・曹大峰(2006)「中国における非母語話者日本語教師の展開ー「大平学校」と北京日本語学研究中心ー」『国際交流基金 日本語教育紀要』第 2 号 国際交流基金 pp.135-140
- (独) 国際交流基金(2005)『海外の日本語教育の現状ー日本語教育機関調査・2003

年一』

- (独) 国立国語研究所(2004)『平成 15 年日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 韓国アンケート調査集計結果報告書』
- (独) 国立国語研究所(2006)『日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究 海外調査報告書』
- 八田直美・築島史恵(1996)「非母語話者日本語教師の現状とその課題」『JALT日本語教育論集』全国語学教育学会 日本語教育研究部 pp.14-24
- 平畑奈美(2006)「海外で活動する日本人日本語教師に望まれる資質」『日本語教育学会春季大会予稿集』日本語教育学会 pp.223-228
- 平畑奈美(2007)「海外で活動する日本人日本語教師に望まれる資質の構造化—これからの日本語教師養成に向けて—」『日本語教育学会春季大会予稿集』日本語教育学会 pp.226-231
- 保坂敏子・土井眞美・長谷川恒雄(2004)「海外における映像教材に対するニーズの共通性と相違性 —『日本語教育用NHK テレビ番組集』制作のためのニーズ調査から—」、『2004 年日本語教育国際研究大会 予稿集 発表1』2004 年度日本語教育国際研究大会、日本語教育学会、国際交流基金、国立国語研究所 pp.125-130
- 横山紀子(2005)「第2 言語教育における教師教育研究の概観—非母語話者現職教師を対象とした研究に焦点を当てて—」『国際交流基金 日本語教育紀要』第1号 国際交流基金 pp.1-19
- 若月祥子・大塚薫(2002)「韓国の大学における日本語教師の現状と役割」『小出記念日本語教育研究会論文集 10』小出記念日本語教育研究会 pp.141-149
- 辛銀眞(2006)「日本国内の非母語話者日本語教師に対する学習者のビリーフの変容—早稲田の初級実践を通して—」『講座日本語教育』第42分冊 早稲田大学日本語教育研究センター pp.60-81

【参考資料1】

海外の非母語話者日本語教師の方へのアンケート調査票 質問項目

1. どんなどころで教えているか、下の質問に答えてください。
- (1) どんなどころで教えていますか。
 - (2) どんな人に教えていますか。
 - (3) どんな教材を使っていますか。工夫していること、困っていることは何ですか。具体的に書いてください。

クラス名	レベル	使っている教材	工夫していること、困っていること

2. 使っている教材について答えてください。
- (1) これまでに使った教材の中で一番良かったものは何ですか。どんな点が良かったですか。
 - (2) これまで学生に一番評判が良かったものは何ですか。どんな点で評判が良かったですか。
 - (3) 現在、使っている教材について何か困っていることはありますか。どんな点で困っていますか。
 - (4) 現在、どんな教材がほしい、どんな教材が足りないと思っていますか。
3. 教える時の問題について答えてください。
- (1) 日本語教師としてどのような能力が重要だと思いますか。順番をつけてください。
()日本語に関する知識 ()日本に関する知識
()日本語教育能力 ()日本語運用能力
()その他: _____
 - (2) 日本語を教える上で、障害となっていることがありますか。あるいは、現在やりたいと思う授業ができていないとすれば、それはどうしてですか。カリキュラムやシラバスの問題、自分自身の能力の問題、教材・教具の不足、学習者が日本語母語話者と接触する機会が少ない、学習者側に問題があるなど、具体的に書いてください。
4. 日本語を教える上で、あったらいいと思う情報や支援は何ですか。
5. (フェースシート情報について)

参照: <http://www.jp-hiroba.com/>

【参考資料2】

国・地域	種類	レベル	使用人数	教材名など
韓国	テキスト	初級～初中級	9	『KUJAPシリーズ日本語』（『KUJAP話そう日本語』『KUJAP Business日本語』含む）
			3	市販の教科書
			2	『日本語初級』『うきうき日本語』
		中級～中上級	1	『ダイナミック日本語1』『日本語作文テクニック』『スタート日本語』『こんにちは』『だれでもできる日本語』『ジュニア日本語』『日本語入門』『初歩日本語教本』『新文化日本語』『YBM超スピード日本語』『日本語会話』『DARAKWON日本語作文初級から中級へ』・教科書
			5	『KUJAPシリーズ日本語』
			2	『うきうき日本語会話（中級）』
	不明	1	『新文化日本語2』『みんなの日本語1』『外国人が日本語の教師によくする100の質問』『日本語セカンドステップ』『日本語表現文型500』『文化日本語』『日本語・日本文化の読解』『フリートキョウ自由自在に表現』『ありがとう大五郎』『ビジネス日本語』『ビジネス日本語』『日本語学の理解』『日本語リスニング』・小学校教科書（光村図書）・市販の教材・日本高校歴史	
	その他	初級～初中級	1	『日本語日本文化の読解』
			3	ビデオ
		中級～中上級	1	テープ・CD・生教材（雑誌・シナリオなど）
			2	ビデオ（テレビ録画）・新聞・市販のテープ
			1	雑誌・アニメのDVD・漫画・テレビ番組・インターネット・生教材
2			ビデオ（アニメなど）	
アルゼンチン	テキスト	初級	11	『みんなの日本語』
			5	『みんなの日本語トピック』『みんなの日本語トピック聞き取り』
			4	『みんなの日本語練習帳』
			3	『みんなの日本語漢字』
			2	『みんなの日本語文型練習帳』『日本語ドレミ』
	その他	初級	1	『リスニングCG』『日本語のジャンプ』『子どもの日本語2』『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE』『日本語ドレミ復習用』『ひろこさんのにほんご』・小学校教科書（光村図書）
			6	『ニュースで学ぶ日本語』『みんなの日本語1』『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE』『能力試験問題集』
			2	『みんなの日本語』テープ/ビデオ教材
			4	『みんなの日本語』CD/復習/絵教材・絵カード
			3	テープ
			2	CD教材・生教材
香港	テキスト	初級	1	かるた・ビデオ（主にNHK）・雑誌・新聞・本・『みんなの日本語』生教材/ドラマ
			5	大学オリジナル（香港中文大）
		中級	2	『みんなの日本語』
			1	『みんなの日本語練習問題集』・大学オリジナル練習問題集・日本語能力試験3級・試験問題（聴解）
	不明	1	『ニューアプローチャ』・大学オリジナル（香港中文大）	
	その他	初級	1	『みんなの日本語』サイトの音声教材/絵教材/絵ファイル・『みんなの日本語』会話ビデオ・テープ・ビデオ・VCD・CD・生教材（新聞・雑誌）
			1	『みんなの日本語』音声教材など
		中級	2	ビデオ（主にNHK）・漫画・CM・ドラマ・雑誌・新聞・CD・インターネット・パワーポイント
			1	『みんなの日本語』CD/VCD
			1	『みんなの日本語』CD/VCD
1			『みんなの日本語』CD/VCD	
ウクライナ	テキスト	初中級	1	『テーマ別中級から学ぶ日本語』『日本語能力試験問題集』
ウルグアイ	テキスト	不明	1	『にほんご45じかん』『ひろこさんのにほんご』
キルギス	テキスト	初級	1	『みんなの日本語初級2』『みんなの日本語初級漢字2』『新日本語の基礎2』『どんなときどう使う200』『わくわく』『毎日の聞き取り』『楽しく聞こう』
	その他	1	ビデオ（『ヤンさん』『こんにちは日本語』）	
ブラジル	テキスト	初級	1	『みんなの日本語』『みんなの日本語ポルトガル版文法解説書』『みんなの日本語聴解タスク25』『みんなの日本語トピック25』
	その他	1	『みんなの日本語』CD/ビデオ/絵カード	

*1 日本大学総合科学研究所准教授

*2 早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師・亜細亜大学 非常勤講師

*3 早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師・専修大学国際交流センター非常勤講師